

令和3年5月1日

各 位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



1



2



3



4

百花繚乱 初夏の人気植物に会いに行こう

- ① シラネアオイ・・・気品のある淡い紫色の大きな花が魅力 もう開花しています
- ② クマガイソウ・・・一度見たら忘れない不思議な形の花 群生する姿は見応えあり
- ③ クリンソウ・・・サクラソウの仲間では一番大きな花 湿地で風に揺れる姿が素敵
- ④ ヤマシャクヤク・・・開花期間がとても短くて約3日間ほど 今年は会えるでしょうか

早春の気温が高かったため、多くの植物が例年に比べ10日ほど早く開花しています。立夏の頃
に開く植物が次々と蕾を付け、気の早いものは花開いているような状況です。

山笑う季節、百花繚乱の季節、野草園内の風景は日々変化します。お天気の良い日に散策を楽し
み、「野草の丘」の芝生で寝転んでみるのもいいでしょう。カメラ片手に何種類の花を撮影でき
るか挑戦してみるのもいいでしょう。自分なりの楽しみを見つけて何度も足を運んでみると、た
くさんの植物がその魅力的な姿を見せてくれます。さあ、野草園に足を運んでみましょう。

5月初めの予定

- 観察会・ガイドウォーキング等のイベントは5月末まで中止します。
- 5月4日（みどりの日）の無料開放は、昨年に引き続き中止します。

■ 4/19（月）～6/14（月）は休まず開園します。 入園料300円（高校生以下無料）

- ◆ サクラ祭り 4月24日（土）～5月9日（日）午前9時～午後4時30分
ヤマザクラ、カスミザクラ、ミヤマカスミザクラなどの様々な桜が見頃を迎えます。
- ◆ 山野草販売 土曜・日曜・祝日に、自然学習センター前で販売します。
- ◆ カフェやまぼうし 木曜・土曜・日曜・祝日に営業します。《5/4、5/20は臨時休業》
カレー、ピザトースト、バナナシェイク、コーヒー
- ◆ 第27回野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展 令和2年度入賞作品を展示します。
5月15日（土）～7月4日（日）
- ◆ 博物館実習生募集 募集期間 5月17日（月）～6月30日（水）
実習期間 8月24日（火）～29日（日）
※詳細は野草園ホームページに掲載される申込要項をご確認ください。

●●●5月上旬に見られる主な花々●●●



ミヤマカスミザクラ(バラ科)

世界でここだけで見られるサクラです。野草園内に自生するサクラで、花柄が枝分かれする等のミヤマザクラの特徴と、花弁の先に切れ目がある等のカスミザクラの特徴を併せ持つ自然交配のサクラです。花の色は白っぽく、清楚な感じがします。



カスミザクラ（バラ科）

シュウガツザクラ、オクチョウジザクラ、ミネザクラ、オオヤマザクラに続き、ヤマザクラが開花した後に、葉の展開と同時に開花します。花は白っぽくヤマザクラに似ていますが、花柄に毛があるので区別できます。ヤマザクラよりも標高の高い所に多く生え、寒冷地を好みます。名前の由来は、開花時の花の様子を霞に例えたものだそうです。



ミヤマザクラ（バラ科）

山地に生育し、南に下るにつれて亜高山帯に多くなります。“深い山の桜”ということから、ミヤマザクラという名前がついています。ヤマザクラやカスミザクラより開花が遅く、葉が開いてから花が咲きます。枝に総状花序を出し、白い花をつけ、花弁は先が円く、裂けていないことが特徴です。



シラネアオイ(キンポウゲ科)

日本特産の1属1種の植物で、多雪地の山地に生える多年草です。淡紫色の花は花弁状の4枚の萼片です。中央に黄色い多数の雄しべと2つの雌しべがあります。葉は手のひら状に分かれています。名の由来は日光の白根山に多く、花がタチアオイに似ているからようです。



クマガイソウ(ラン科)

杉林や竹林に多く、長い地下茎で繁殖する多年草です。ランではめずらしく幅広い2枚の葉がほぼ対生状につき、袋状に大きくふくらんでいる花を茎の先に1個つけます。

その昔戦場で矢よけのためにふくらませた布製の袋(母衣)を背負いましたが、袋状の唇弁を源氏の武将熊谷次郎直実の母衣(ほろ)に見たてたことが名前の由来です。



クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわがたくさんあります。花が開く頃に花茎はぐんぐん伸び、紅紫色の花を5〜7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いようです。クリンソウ(九輪草)は、寺院の塔の頂上部にある九つの輪の装飾(九輪)に例えて名づけられたようです。



ヤマシャクヤク(ボタン科)

林の斜面などに生育する多年草です。葉は2回3出複葉で、両面とも無毛で柔らかいです。白い花は花弁は5〜7個、雄しべは多数でやくが黄色く、雌しべが3個で柱頭が赤黒いです。3〜4日で花は散ってしまいます。



サクラソウ(サクラソウ科)

山地の湿り気の多い所に生える多年草で、花が美しいことからよく家庭で栽培され、園芸品種も多いようです。葉は楕円形でしわが多く縁は浅く切れ込んでいます。名前はサクラに似ているからついたようですが、サクラソウは合弁花で5枚に見えるハート形の紅紫色の花弁は下がかくっついていて筒状になっています。



カタクリ（ユリ科）

1 枚の細長い葉から平たい葉になって、2 枚の葉を出すようになると花を開きます。種子から開花まで7 年もかかるそうです。カタクリの花は淡紅紫色で、花びらのつけ根に濃紫色のW 字形の模様があり、上の方へ大きくそり返ります。カタクリのでんぷんから採ったものが本物の片栗粉です。



ニリンソウ(キンポウゲ科)

藤棚の西側の道をはさんでウゼントリカブトの向かい側に咲いています。2 個の花をつけることによる名ですが、1 個のことも、3 個のこともあるようです。白色の花は花弁状の萼片で、5～7 枚あります。葉は3 つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。



ヒトリシズカ(センリョウ科)

高さは10～30cm。葉は4 枚が輪生状に付き光沢があります。茎先に1 本の穂状花序を出し、ブラシ状の小さな白い花をつけます。一本で生えるのは稀で、普通群生するようです。名前の由来はこの花の可憐さを愛でて静御前になぞらえたものと言われています。近縁種のフタリシズカが花穂を2 本以上出すのとは対比させています。



キバナイカリソウ(メギ科)

和名は花の形を船の碇に見たてたものです。主に日本海側の山地に生える多年草です。花色は淡黄色で、4 枚の花弁からのびた長い距が四方につきだし、前のほうに曲がっているのがよくわかります。漢方では、強壯剤として有名です。



アズマシャクナゲ(ツツジ科)

東北地方など東国に分布するので、この名が付けられました。枝の先に花芽が1 個つき、そこから数個の花が咲きます。花は漏斗形で広く開き、先は5 裂します。常緑の葉は革質で、裏面に灰褐色の真綿状の軟毛があるのが特徴です。



ムラサキヤシオツツジ(ツツジ科)

日本海側の夏緑林帯に多く針葉林帯にもあります。葉は枝先に輪生状に付きます。山形県では、鳥海山、月山、蔵王山、朝日岳、吾妻山などに普通に自生しています。本園ではロックガーデンに植栽しています。



シロヤシオ(ツツジ科)

太平洋側の山地に多く、葉と同時に開く花は白いので清潔な感じのするツツジです。名も花が白いことからきています。花は広い漏斗形で先が5裂して上面の花弁の内側に緑色の斑点があります。葉は枝先に5枚輪生状に付くことからゴヨウ（五葉）ツツジとも言われます。



トウゴクマムシグサ(サトイモ科)

ヘビが鎌首をもたげたような姿の花です。葉は2個、小葉は長楕円形で7～9個つきます。仏炎苞は緑色～紫色、筒口部は少し曲がって耳状となっています。仏炎苞の中にある付属体は先端がまっすぐな棍棒状になるようです。



オキナグサ(キンポウゲ科)

花茎の先に付く花はつり鐘形です。葉も花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生して白っぽく見えます。萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です。花が終わった後雌しべが羽毛状にのび、老人の白髪のようになります。それで、オキナグサ（翁草）です。



フデリンドウ(リンドウ科)

山野の日当たりのよいところに生える小さな2年草です。秋に咲くリンドウとくらべると小形です。茎の半ばから上に対生の葉をつけ、その先に青紫色の花を数個つけます。花は上向きに咲き、日光が当たると開き雨天や夕刻では閉じます。茎の先につく花のつぼみ（正確には花が閉じたとき）の形が筆の穂先を思わせることが名前の由来です。